

網走開建

年度末には仮復旧へ

333号北見市北陽の土砂崩落

【網走】網走開建は二十五日、死亡事故が昨年発生した国道333号北見市北陽の土砂崩落現場の応急復旧について、現地説明会を行った。工事の進ちよく率は一七%程度と予定よりや

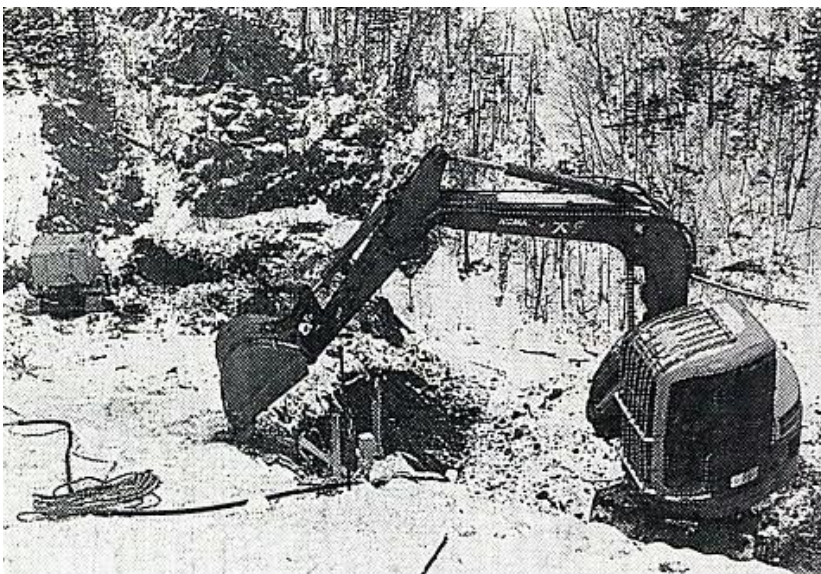
や遅れているものの、年度末までには計画通り、日中片側交互通行の仮復旧にこぎ着ける見通しだ。工事自体は昨年十二月二十七日に着工したが、本格化したのは年明けから。一

月十二日から無人（遠隔操作）のバックホーで切り土を開始、二十二日からは有人のバックホーと二台体制で作業を実施している。

この切り土は、崩落のり面を修正して安定斜面にし、作業や復旧後の通行の安全を確保するために行っているもの。これを二月十日ごろまで行い、終わり次

第、仮橋架設や取り付け道路の盛り土など一挙に着手し、年度末の仮復旧に持ち込む予定だ。

崩落現場の対岸を通るう回路は延長三百六十六メートル（うち仮橋百二十九メートル）で、監視員を置き、日中片側交互通行、夜間は通行止めとなる。



切り立った現場で慎重に作業、奥の無人バックホーで切り崩し、手前の有人機で仕上げる